

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦評

平成 16年 2月 15 日 (日)		会 場 :		大垣市総合体育館	
開始時間: 11:40 ~	最終日	男子	準決勝		
Aチーム 三重県 四日市西	83	$\left[\begin{array}{r} 21 - 15 \\ 31 - 34 \\ 13 - 19 \\ 18 - 25 \end{array} \right]$	93	Bチーム 静岡県 飛龍	

両チームともハーフマンツーマンでスタート。まず流れをつかんだのは四日市西。荒井からの速いパス回しから、中西、坪井が確実にミドルシュートを決める。対する飛龍は、序盤、シュートに固さが見られ、なかなか思うように得点をあげられず、21-15と四日市西リードで第1ピリオドを終了する。

第2ピリオドに入ると、飛龍の高さがある攻撃が決まり始める。飯田、種市のゴール下のシュートで徐々に点差を詰めていく。四日市西も、荒井のカットイン、坪井のジャンプシュートなどで粘り、52-49と四日市西が3点リードで折り返す。

第3ピリオド、飛龍は2mの李をコートに入れ、ディフェンスを1-1-3のゾーンに変える。リバウンドを確実に支配し徐々に流れをつかみ、残り3分を切ったところで63-61とこの試合初めてのリードを奪う。両者一步も譲らぬ中、残り1秒で飛龍大石が3点シュートを決め、68-65と飛龍の3点リードで最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、四日市西は中西のジャンプシュートで必死に食らいつくが、飛龍の高さのある攻撃を止めることができず、点差を縮めることができない。結局、93-83で飛龍が決勝進出を決めた。四日市西は、前半だけで22点を挙げた坪井が第2ピリオド途中で負傷退場したのが痛かった。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	杉山秀謙

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦評

平成 16年 2月 15 日 (日)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 11:40 ~	最終日	男子	準決勝
Aチーム 三重県 四日市工	65	$\begin{bmatrix} 8 & - & 16 \\ 14 & - & 31 \\ 12 & - & 28 \\ 31 & - & 17 \end{bmatrix}$	92 Bチーム 愛知県 安城学園

第1ピリオド、安城学園はオールコート2-2-1ゾーンプレスから2-1-2ゾーンを敷き、速攻を狙う。伊藤が内外角に活躍し、先にゲームの主導権を奪う。四日市工も、オールコートマンツーマンから途中1-3-1ゾーンに変え流れをつかもうとするが、シュートミスが多くロースコアに終わる。

第2ピリオドに入っても、安城学園は厳しいゾーンディフェンスで相手のミスを誘っては、ターンオーバーから伊藤の3点シュート、伊与田のペネトレートから宇佐美のシュートと次々に加点し、差を広げる。四日市工は相手の激しいディフェンスにミスが続出し、思うように攻められぬまま、前半は47-22と安城学園が大きくリードを奪い折り返す。

第3ピリオドに入っても、四日市工は相変わらずミスが続く。安城学園は伊与田を軸に攻撃を展開し、このピリオドだけで伊与田、坊野がともに10得点をあげる活躍で、75-34と一気に相手を引き離れた。

第4ピリオド、安城学園はスタートメンバーをベンチに下げ余裕の展開で決勝へと向かう。四日市工も船津が3本、安藤が4本の3点シュートを決め激しく追い上げるものの、第3ピリオドまでの差を縮めるまでには至らなかった。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	小野卓也

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦評

平成 16年 2月 15 日 (日)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 15:00 ~	最終日	男子	3位決定戦
Aチーム 三重県 四日市西	72	$\left[\begin{array}{r} 20 - 12 \\ 17 - 19 \\ 13 - 26 \\ 22 - 17 \end{array} \right]$	74 Bチーム 三重県 四日市工

三重県大会決勝と同じ対戦となり、お互いの手の内を知り尽くしているため、立ち上がりは両チームともシュートが決まらない。四日市西は 奥、中島のアウトサイドシュートで徐々に差を広げていく。対する四日市工は 永見のポストプレー、船津のドライブインでリズムをつかむ。リバウンドのとれない四日市工は2-1-2ゾーンディフェンスに切り換えるが、四日市西の思い切りの良いアウトサイドシュートが決まり、第1ピリオドは四日市西が20-12とリードする。

第2ピリオド、四日市工はゾーンディフェンスでゴール下を固めるとともに、安藤のドライブインや3点シュートで点差を縮めようとするが、四日市西も 中島、奥のシュートが確実に決まり追い上げを許さず、37-31と四日市西がリードして前半が終わる。

四日市西は 荒井の3点シュート、中西のドライブインなどで何とかリードを保つ。残り3分、四日市工は 安藤の3点シュートで同点とすると、その後も 安藤が連続して6点を挙げ、一気に逆転に成功し、四日市工が57-50とリードする。

第4ピリオド、四日市西はメンバーをすべて1年生とし、果敢にシュートを狙うとともに、リバウンド、ルーズボールを積極的に追いかける。四日市工は 永見がゴール下を支配し、両者一步も譲らない。残り13秒、四日市工2点リードの場面で四日市西のスローインとなるが、シュートが決まらずタイムアップ。四日市工が逃げ切り、東海大会第3位となった。四日市西はエース 坪井の負傷での欠場が痛かった。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	後藤慎二

第17回東海高等学校バスケットボール新人大会 戦評

平成 16年 2月 15 日 (日)		会 場 : 大垣市総合体育館	
開始時間: 15:00 ~	最終日	男子	決勝
Aチーム 静岡県 飛 龍	44	$\left[\begin{array}{r} 3 - 21 \\ 12 - 12 \\ 15 - 18 \\ 14 - 20 \end{array} \right]$	71 Bチーム 愛知県 安城学園

飛龍マンツーマン、安城学園は2-2-1ゾーンプレスから1-3-1ゾーンでスタート。飛龍は安城学園のゾーンディフェンスを攻めきれず、単発な攻撃となりシュートミスが目立つ。安城学園はディフェンスリバウンドを確実に奪い、伊藤のドライブ、永田のリバウンドシュートなどで加点。21-3と安城学園が出足で大きく飛び出した。

第2ピリオド、飛龍は羽柴の連続3点シュートで追い上げを図る。対する安城学園は中野がゴール下で着実に得点し、33-15とリードして前半を折り返した。

第3ピリオド、飛龍は2mセンターの李を投入し、ディフェンスを1-2-1-1ゾーンプレスから2-3ゾーンに変化させる。開始1分、得点源だった飛龍羽柴が4ファウルでベンチに下がるが、種市、山田が立てつづけに3点シュートを沈め追い上げる。しかし、安城学園の堅いディフェンスの前に、インサイドではまったく得点が奪えず、安城学園が51-30でリードしたまま最終ピリオドに入る。

第4ピリオド、安城学園は伊藤、伊与田の3点シュートで突き放しにかかる。飛龍は羽柴が3点シュート立てつづけに決め、一進一退の攻防になる。しかし、安城学園は堅いディフェンスからリバウンドを奪うと、次々に速攻を繰り出し、粘る相手を振り切って東海大会の優勝を決めた。

文 責	所 属	岐阜県高体連
	氏 名	宮崎泰彦